

○小集団活動を利用した学級

長倉家庭教育学級 講師 長谷川三男

④ 分科会

ア、家庭教育学級の企画運営（学習内容編成を含む）はどのようにすればよいか。

イ、家庭教育学級の効果的方法はどのようにすればよいか。

3 家庭教育(幼児期)相談事業

(1) 目的

幼児教育が極めて重要であることから、特に3歳児を第一子に持つ親を対象に家庭教育上の具体的問題を取り上げ、これを解決するために専門家等の協力を得て必要な情報を提供し、また個別的な相談を行い、家庭教育学級の充実とあいまって、本県の家庭教育の振興を図ろうとするものである。

(2) 実施主体

福島県教育委員会

(3) 協力機関

市町村教育委員会

(4) 実施期間

昭和49年5月～昭和50年3月

(5) 対象

県内3歳児を第一子に持つ親 12,000名

(6) 事業の内容

- はがき・チラシによる相談指導（年間10回）
- 巡回による相談指導（県内26会場）
- テレビ放送による相談指導（年間30回、9月～3月、毎週日曜日午前10時15分～30分、カラー15分間、再放送、毎週月曜日午前10時30分～45分）

(7) 家庭教育相談事業各種委員会

ア、企画運営委員会

- 本事業の企画運営を適切に推進するため、企画運営委員会を設置する。
- 企画運営委員会は、年間5回会議を開催し、家庭教育相談事業全般の企画運営並びに、はがき通信、巡回相談に関する方針や要項、テレビによる相談指導に関する方針や要項の策定をする。

イ、企画運営委員

氏名	役職名
島貫快祐	福島大学教育学部教授
堀口知明	〃
工藤正悟	〃
菊池章夫	〃 助教授
大原徳明	福島県立医科大学教授
西沢長吉	福島県社会教育委員
大原富美子	大栄商事社長
辺見正治	福島市教育委員会教育長
塚原喜智	福島テレビ報道制作局長
久保井 愧	福島県厚生部公衆衛生課長
遠藤喜多男	福島県厚生部児童家庭課長

ウ、はがき通信指導班委員会

- はがき通信による指導を行うため、はがき通信指導班

を設置する。

- はがき通信指導班は、年間7回会議を開催し、はがきによる通信指導の企画運営に当たる。

エ、はがき通信指導班委員

氏名	役職名
工藤正悟	福島大学教育学部教授
都通彦	福島県立医科大学助教授
関口はつ江	郡山女子大学短期大学部助教授
山脇道子	福島市立東浜保育所長
遠藤愛子	福島市立飯坂幼稚園主任

オ、巡回相談指導班委員会

- 巡回による相談指導を行うため、巡回相談指導班を設置する。
- 巡回相談指導班は、年間7回会議を開催し、巡回相談の企画運営に当たる。

カ、巡回相談指導班委員

氏名	役職名
小森澄憲	郡山女子大学短期大学部助教授
工藤正悟	福島大学教育学部教授
柴田 薫	〃 助教授
河野義章	〃 講師
田中平作	福島女子短期大学教授
渡辺俊彦	〃 助教授
遠藤盛男	〃
鈴木 仁	福島県立医科大学講師
加賀美代子	福島県中央児童相談所専門心理判定員
鈴木二郎	〃 主任児童福祉司
高橋弘勝	福島県会津児童相談所主任心理判定員
河島忠吉	〃 児童福祉司
鴨沢律子	福島県浜児童相談所主任心理判定員
天口利夫	〃 児童福祉司

- キ、巡回相談参加者 個別相談者 307名
グループ相談者 418名

第5節 公民館等社会教育施設

1 概要

社会の進展に即応し、生がい教育の立場から生活の向上充実に生じてくる種々の課題を解決するため、青少年をはじめ各人各層にわたり学習活動が強く要求されている。これらの学習活動に場を提供し、学習活動を助長するための社会教育施設の持つ役割は極めて大きい。現在社会教育施設は、地域住民に密着している公民館をはじめとして、各年代に対応した学習のできる少年自然の家、青年の家、婦人の家等があり、学習内容に応じた施設としては、図書館、博物館、視聴覚センター等がある。また施設の運営においては所属職員が重要な役割を果たすことにかんがみ、施設の専任職員の定数の確保並びに社会教育施設の整備と指導者の充実とに力点を置き、市町村教育委員会及び関係機関団体との協力態勢を強化し効率的な運用を図るよう次の点をかかげ努力した。